



## 第71回 社会を明るくする運動

「社会を明るくする運動」とは、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築くため、法務省が主唱する全国的な運動です。



令和3年度の社会を明るくする大会において、本校の2年生 馬場あかりさんが代表に選ばれ、事前に発表の様子を収録し、会場で放映されました。そのときの発表内容が、文京区保護司会の「情報」に載りました。紹介いたします。

### ～意見発表 あなたの「思いやり」～

茗台中学校2年 馬場あかりさん

皆さんは、「思いやり」とはどういうことだと思いますか？実際に、「思いやりの意味」を即座に答えられる人は、少ないのではないのでしょうか。

私が考える「思いやり」とは、相手がその行動によってどういう気持ちになるのか考える、ということです。私は、このことをできるだけ意識して、話したり、行動したりしています。皆さんには、自分の考える「思いやり」がありますか？また、それを意識して行動しているのでしょうか。

私には小学六年生の時に、「思いやり」について、深く考えるきっかけになった出来事があります。そのころ、私が通っていた塾では、職業に就いて調べ、発表するプロジェクトを進めていました。私は、人を喜ばすことができる仕事に興味があったため、ホテルのコンシェルジュの方に直接インタビューする機会を得たのです。

その方がとても大事にしていたのが、「お客様を思いやる心」です。ホテルで働くには、ホスピタリティの精神が欠かせません。お客様が何を望みどうしたら喜んでもらえるか……。そのように、どんな時でも相手の立場に立って、物事を考えてい

るとおっしゃっていました。もちろん、私たち学生の「思いやり」と、ホテルのような、おもてなしの場での「思いやり」では種類が違うでしょう。ですが、実際に「思いやり」の心を常にもち、働いている人の言葉を聞いて、私は、いつも相手の気持ちを考えて行動しているだろうか、と思うようになりました。ですから、その後からはできるだけ、行動する前に相手がどういう気持ちになるかを考えるようにしています。

「社会を明るくする」には、みんなが笑顔で、楽しくいられることが大切です。全員が楽しく毎日を過ごす、ということはとても難しいことかもしれません。ですが、一人一人が「思いやりの心」をもつことで、そのような明るい社会に大きく近づくことができるのではないのでしょうか。

しかし一方で、悲しい事件も起きてしまっています。去年は、SNSで誹謗中傷を受けた女性が、亡くなってしまいう事件がありました。自分の意見だけを一方的に主張するのではなく、一度、相手の立場に立って、相手がどう思うのかを考えてみれば、相手がひどく傷つくようなことは言えないのではないのでしょうか。それが積み重なれば、このような事件も起きなかったはずで、

いじめや差別の問題でも同じことが言えます。相手が「嫌だ」と思ったら、それは、いじめです。軽く冗談を言っているつもりでも、相手が、本気で嫌がっているかが分からないから、いじりを続けてしまうのでしょう。一度だけでもその人の気持ちを考えることが大切だと思います。

私は、茗台中学校で生徒会に入っています。生徒会では、生徒総会やいろいろな行事の運営、準備を一生懸命に行っています。ですが、会が終わった後に「つまらなかった」とか「眠くなった」と、言われてしまうこともあります。もちろん、言っている人たちに、相手を傷つける気持ちは全くありませんが、やはりそういうことを言われると、せっかく頑張ったのにな、という気持ちになってしまいます。他人の気持ちを完璧に理解することはできません。ですからこのように、自分が気付かないうちに相手を不快な気持ちにさせてしまうこともあるでしょう。でも、少しずつ、相手の心を考えるようにすれば、そういうことはきっと少なくなるはずで、

「思いやりをもとう」「相手の気持ちを考えよう」ということは、社会で生活していく上で、何度も何度も聞く言葉です。しかし本当に、自分は思いやりをもっているのか、考えてみてください。あなたにとっての「思いやり」とは何ですか？

もちろん「思いやりの意味」に正解はありません。ですが、この私たちが生きる社会を、明るく、みんなの笑顔があふれるものにするには、一人一人が、自分の「思いやり」を胸に、生きていくことが大切だと思います。